No. 108

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価 1部 15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL 1492

千曲会報

昭和36年3月1日

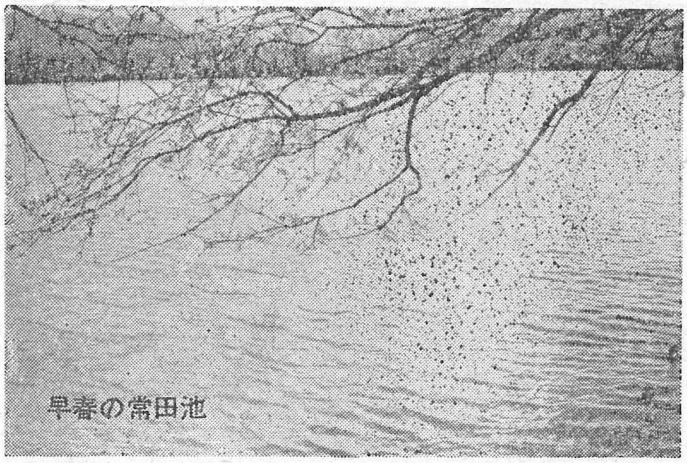
編集兼発行人 小林尚一
発行所 社団法人 千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野6243・東京43341
電話上田1215(代表)1218(直通)

繊維機械学科の新設について

信州大学繊維学部長 小泉清明

繊維機械学科の新設が1月21日文部省から発表された。しかしこれは現段階では大蔵省の査定を通り，閣議で来年度国家予算に計上されたことを示したもので，確定は国会を通り計画の内容が大学設置審議会の承認を得てからであるから，特別の事情がない限り，官報に掲載されるのは3月末か4月初めになろう。

繊維機械学科の新設は学部のいわゆる改新計画第一歩をなす。学部は終戦直後単科独立運動で勇名（？）をはせたが，その後10年間は鳴かず飛ばず，世間からも斜陽大学視された。この間に社会のあらゆる状態は急変し，大学に関しては理工系学部の大規模な拡充が叫ばれ，繊維産業界では蚕糸業が凋落して化繊がものすごい勢いで台頭してきた。学部が今まで歩んできた機構や態度ではこの新しい情勢に対処することは，誰がみても不可能で，ここに期せずして学部改新の叫びが全学におこった。昭和34年の新学期の頃で，林貞三学部長は鋭意にこの推進にあたった。同年11月14日上田市の柳沢健太郎氏のあっせんで，大屋晋三帝国人絹社長の来学講演は劃期的なこととして，この機運に拍車をかけた。この年の改新計画の内容は次のようである。（35年1月の印刷物による）


早春の常田池

1　養蚕学科を繊維農学科に改称する。
2　製糸学科及び紡織学科を改組して繊維工学科並びに繊維機械学科とする。
3　繊維化学科の充実。
4　高分子工学科の新設。

林学部長は案の実現を数次にわたって文部省にせっしょうしたが，高分子工学科が了解を得られないまま，全計画は実現をみるに至らなかった。

35年4月学部長交替を機に改新案の全面的再検討をすることになり，全教官あげての討議の末内容を次のように改めた

1　養蚕学科を繊維農学科に改称する（6講座，学生30）
2　製糸学科と紡織学科を改組して紡織工学科とする（5講座，学生50名）
3　繊維化学科を繊維工業化学科に改称して2の講座（有機合成化学，高分子成型学）を増設する（6講座，学生50名）
4　繊維機械学科を新設する（5講座，学生50名）
5　高分子工業研究所を新設する。

繊維工業化学科の2講座増設と高分子工業研究所の新設はこれらを基礎として将来高分子工学科新設の含みとする。

以上の要求はその全部を36年度に実現することは，文部省当局の既往の経験からして不可能のことがはっきりしたので全体を年次計画と考え，初年度は繊維機械学科の新設と，既存学科の改称改組をとりあげることになった。せっしょうの結果冒頭にしるした繊維機械学科の新設がまず国家予算に計上された次第で，既存学科の改称改組は第二段階として目下交渉中これは手続きの関係上この年度末には実現はおぼつかないと思われるが，原則は承認されているので時日の問題となろう

繊維機械学科が目標としている内容は，学生に対して，今日の繊維産業の異常な発展を将来した一大要素である繊維機械の製作工夫改善，操作に応ずる能力を修得させることにあるが，このためには一般機械学科と同様に数学，物理学，力学などの専門基礎をしっかり身につけさせ，周辺学科として弱電，流動学，化学工学，工業経営，制御管理なども学ばせる。一言でいえば一般機械の知識を充分備えた新しい時代の機械技術者を養成する。このような目的のために講座として繊維応用力学，繊維機械学，熱及び流体工学，繊維測定機械学，繊維化学機械学（以上を繊維機械学第1～第5講座と呼称する）の5講座を設置する。教官は教授5，助教授5，助手5で構成されるが，このうち教授2，助教授2，助手1は既存の製糸学科と紡織学科から専門家が振替配置になる（学科新設の場合どこの大学でも既存学科から教官の振替が行われる）さらに増設に伴う一般教育の教官として教授2，助教授1も予定される見込み，したがって学科増設に伴って専門一般合せて教授5，助教授4，助手4の増員が見込まれることになる。

36年度本学科新設のために国家予算として計上された額は6,821,000円このうち600万円は設備費；残額は初年度設備費（机，腰掛などの費用）その他である。600万円の設備費は従来の例から想像すると，完成年度まで毎年ほぼ同額が計上される。したがって設備費の総額は2,400万円程度になる。この点は昨年までの理工系学科の新設の場合の年額97万円内外（総額400万円弱）とくらべると雲泥の差である。建物の新設もいづれは認められるわけで，総建坪720坪，鉄筋3階の建築が行われる予定である。

繊維機械学科は業界でも非常に好評のようである。日本の繊維機械は精巧を極め，外国でも評判よく，専門のメーカーは100社をこえ，需要も年とともに増大している。一方繊維の製造会社も各々競争で機械の改良に苦心している。この時に繊維の知識をもった専門の機械技術者養成の学科新設は時宜に適し，わが国における唯一の特色ある学科として，既に4年先きの卒業生採用の予約を希望している会社さえあるほどである。

ついでに「信州大学改新期成同盟会」と改新費用の関係にふれておきたい。同盟会は昨春東京の如水会館で発起人会を開き，会長に代議士小坂善太郎氏，副会長に長野県副知事笠原吉三，上田市長堀込義雄，田沢倉庫社長柳沢健太郎の3氏をすいたいして正式に発足した小坂氏はその後外務大臣に就任され会長を辞退されたので，後任として参議院議員木内四郎氏をお願いしたまた。理事，監事，幹事，顧問などの役員が大学教職員，同窓会員，衆参両院議員，県議，市議，業財界有力者の中から依嘱され，事務局長として同窓会員母袋良平氏（蚕10）が献身的に事務を総括されることになった。同盟会の目的はいうまでもなく改新計画の期成にあり，文部省大蔵省に対する側面的交渉もさることながら，特に改新の実をあげるための資金募集の援助が重要な役割になっている。

改新に要する費用すなわち建物，学生の実験実習，教官の研究に要する機械器具の整備，研究所の設置に要する費用の総額は2億3,800万円の巨額にのぼる。この総額を国家予算のみに期待することは，他の大学との振合いもあって，ほとんど不可能なので，この約半額の1億3000万円程度は地元の県市，国内の業財界からのご寄附にまつことになった。このために昨年9月頃から募金運動を初めた。時世は寄附金ブームの時代，特に理工系大学の拡充国策によって各大学とも強力な募金運動を展開中，前途は楽観を許さない。しかし不動の決意と関係者のたゆまざる努力によって現在の情勢はだんだん好転し，もちろん今後いくたのうよ曲折と困難が予想されるとしても，どうやら目標に近い金額の調達は必ずしも絶対不可能とはいえない状態にまできている。

われわれはかくして文部省からも指摘されたように，繊維機械学科の新設と，学部再建の第一歩の踏出しと考え，全教職員，全同窓会員の一致協力によって，近い将来見違えるような学府に改新して，国家社会の負托に答えたいと思う（1961.2.20記）

繊維機械学科の新設に当って

信州大学教授 柳 沢 延 房

本学部から文部省へ提出の繊維機械学科新設の申請は1月18日予算委員会並びに閣議を通過し，国会の決定をまって大学設置審議会にかけ，そこで正式の決定を見るのであるが，新設の可能性を見込んで着々その準備を急いでいる。

新設予定の繊維機械学科の学生入学定員50名，講座数5，教官陣容15名，うち学部内の5名の教官が本学科に移る予定で，残り10名の新しい教官を他から迎えることになる。

繊維機械学科は文部省で初めて認可する新学科である。現今繊維機械は極度の発展を遂げ，機構，精度，能率の点から高度の基礎知識と技術を必要とするに至り，且つ「安かろう悪かろう」の日本製品の悪評から脱して，世界の水準を凌駕する高性能の優秀機械の生産は，現在日本の使命である経済伸長の立場から真に急務であると考えられる。

新しい学科新設である丈にその講座内容，履修方法，設備等も大いに研究し，しかも現在の要求にマッチした漸新な若さに溢れ，且つ内容の充実した特徴をもつ学科に致し度い。そのためには各方面の識者先輩の貴重な御意見，御指導を仰ぎ度い。

幸に大学本部からの御支援を受け，研究室，実験室，工場等の建物は本学部全体の改築計画と歩調を合せ，強力に推進されて居り，設備も文部省を初め県や地元，業界からの御厚志により非常な期待と希望とをもって，その計画を進めている。

新任教官の招聘は時節柄相当の困難が予想されるが，これまた学内一致協力して優秀な教官の招致を期している。

最後に講座内容についてであるが，基礎専門科目に特に重点を置き，これ等を講座外に纏め，総てこれを必修科目としまた繊維機械学科としての一つの特性をもたせるために，一般の機械学科にない繊維化学機械講座を盛り，現在異常な用途分野を拡張しつつある機械材料の化学的知識や一般化学機械の問題も修得させる予定である。

尚他学科との連携を密にし，工場管理，品質管理，電気工学，自動制御等の学科目も準備し，また希望に応じて他科の学科目も自由に聴講出来るよう編成されている。

念のため講座及び学科目の大要を次に記す。

第一講座（応用力学講座）
　機械力学，機械振動学，弾性学，応用力学演習

第二講座（繊維機械学講座）
　繊維機械学，繊維機械設計法，機械製作法，繊維機械実習

第三講座（熱及び流体工学講座）
　熱機関，熱工学特論，流体機械学，繊維機械実験 I

第四講座（繊維測定機械学講座）
　繊維機械測定 I，同 II，繊維測定機械設計法，繊維機械実験 II

第五講座（繊維化学機械学講座）
　繊維機械材料学，材料化学，化学機械学，繊維機械実験 III

講座外基礎科目
　工業数学及び演習，応用物理学，工業力学，材料力学，工業物理化学，機構学，水力学，流体力学，熱力学，流動学

他に学外実習，卒業論文

他科との共通学科目省略　　以 上

新発足に際して書き残す

前学部長　林　貞三

1　踏切り

日露戦争後五大強国の列に加わったがその実の伴わなかった我が国が急速に欧米の文化に追い付き追い越すには外貨を獲得しそれによって科学技術の輸入を計るのが不動の国策でなければならなかった。註1，蚕糸科学の一貫した研究と技術者の養成を目的として上田蚕糸専門学校の創立されたのは極めて自然であり当然である。学校はこの要請に応えて幾多の英才を送り出すと共に有意なる試験研究により学界及び業界に貢献して来た。

五十年前に比べれば養蚕能率は10倍に製糸能率は百倍に達し蚕糸報国，輸出の大宗の名を永が年に亘り専横にし，国家の母校創立の目的は完全に果し得たと心得る。

然るに此次大戦後の様相は一変し蚕糸の生産は戦前の40%に留まり且つその生産性向上の結果例えば製糸工場数に於て最盛期に3500工場あったものが僅かに102工場となりなお有り余っている。従って卒業生の活動分野も甚だしく狭り蚕糸プロパーに就職するもの極少数に過ぎない実状に立ち至った

その事は戦後五，六年にして現われ始め入学志願者の量及び質に影響して来たのはいうまでもない。固より蚕糸は純輸出産業としてなお重要でありその研究を一日も忽にするものではないが斯くては如何に名は実の賓なりといえども将来に希望を持する青年学徒に対して養蚕製糸の科名を固守するわけには参らない。其処に学部改新の意図があるのである。

学部には数年以前から繊維学部振興委員会が設けられ研究討議の末先ずカルキラムの改正を実行したがこれだけでは足れりとしない。然し仲々容易でない。即ち文理農工学部の多くはカリキラムを改めれば足りるのに対して特殊な分化した諸科を持つ繊維学部に於ては名実共に換えていかねばならない困難さが伴うのである。更に又信大には農学部，工学部，文理学部があって自由勝手には参らない。それ等と合併すればと考えても相手がある事とて愈々意に任かせない。結局漸進方法をとる外ないが兎も角やらなければならないと決したので昭和34年3月10日卒業式に於ける学部長式辞の中に学部改革の意図を明かにし，4月17日開学記念講演会に於て私は改新の必要性，事情方向を解述した。これは千曲会報97号に乗載されたので御覧願ったかと思う。又上田ロータリークラブの結成式に出席し五十年前何故上田に専門学校が設立されたか，その後の歩み，更に現況を述べ改新に踏切ったので市民の御後援をお願いしたいと結んだ，これは詳細上田新聞に乗載された。

2　繊維学部は工学部門に入る

これより先き上田，東京，京都の三繊維学部長は工学部長会議の正式メンバーたらむとして申し入れを行ってあった。工学部長会議は32年33年会議に於て討議され「三繊維学部が農学部門を脱退して希望されるならばよかろう」という事であった。

当時の考え方は両部門に属して置こうという考え方であったようであるが工学部長会議からの回答に対し東京の繊維学部は直に賛成されたので当学部に於ても34年4月に教授会議の議題とした。その結果農学部長会議にオブザーバーとして学部長又は代理者を出席させる事を条件として工学部門入りの決議が行われたので直ちに農学部長会議及び工学部長会議に所要の手続を済ませ34年夏京都大学に開かれた工学部長会議に私は正式メンバーとして出席し，十月宮崎大学で開かれた農学部長会議には八木教授オブザーバーとして初めて出席した。註2．

3　改新具体案

連日のように教官会議，振興委員会，各分科会議，教授会議を開き修正補正を繰り返し34年6月2日最後案として決定したのが現状を繊維農学科，繊維工学科，繊維機械学科，繊維化学科に改組し新に高分子工学科を増設する総予算2億4千万円，これを整理印刷して6月5日大学本部に提出，説明会を経て7月の評議会を通過し直ちに文部省に提出された。

4　改新期成同盟会のこと

これだけ膨大な改新案を企画するには文部省や大学当局の諒解し易いように裏付けを必要とするのが常例である。早くから改新期成同盟会の結成を考え33年の秋頃から地元代議士参議院議員県議市長などにお話し協力を求めて来た。

恰も友人柳沢健太郎氏より大屋帝人社長を軽井沢からお迎えし学部を見て戴いたりお話を願うおではないかと誘われた。これはぜひ実現したいと考え学内の了解のもとに柳沢氏と上京し大屋社長に面接して懇請，快よく御承知願った。即ち34年11月24日大屋社長，桜田，西村両常務取締役の講演会を開催することに成功した（前日善光寺拝観，戸倉温泉に於ける歓迎会，講演当日学内中饗会懇談会等）

更に柳沢，呉，及び私上京して大屋社長に前からお話し申し上げた期成同盟会の会長になって欲しいと要請した処熟考の末事業には最大の協力をするが会長は私でない方が好都合だとて小坂善太郎代議士を推薦された。もちろん社長は顧問を承知早速羽田代議士を訪問し御諒解を願ったので議員宿舎に小坂先生を訪問し御願い申し上げた結果諸先輩が諒解下さるならば御引受けして最善の努力を致しましょうとの心強い御回答を取付けた。

次で出県して知事副知事と懇談の結果知事は顧問に笠原副知事が副会長に御内諾を得，堀込上田市長及び柳沢社長も副会長に又顧問理事候補も挙げられ，期成同盟会の骨格は完成したのであった。

5　文部交渉

a．文部省の某有力者より上田の案は筋の通った良い案である。その上は信大としてそれを優先的に取り上げて欲しいことを当局からはっきり強く要請することだと教えられたので間髪を入れず上田から私と呉教授清水事務長，本部から伊藤大学長，事務局長，会計課長六人上京して繊維学部の改組拡充の必要性と内容を縷々説明して参った。

b．八月に文部次官の都合を問合せ学部当局である私と同窓代表野口理事長，地元代表羽田武嗣郎代議士と文部次官にお会し同様説明すると共に懇請した。その時文部次官より高分子学は大学院大学に於て研究させる方針で地方大学には荷が重過ぎると考えると伺ったので学部の歴史，現在のスタッフを挙げ当学部こそ可能だと信ずる旨を開述したがこの事が一つの大きな壁であったことは事実だ。

c 関係課長係長とお会し説明したり懇親したりした事はいうまでもないが春山大学課長，註3．は上田の案は猫に小判のような案だ，猫に鰹節のような案を持ってお出なさいと云う言葉もあった。

d 私は私的に新大学局長に懇談の機会を得たので上田はこの案により再生したいと情熱を傾けてお話した。その時小林局長は高分子学は繊維化学でやるべきで科名は大きく広くして置く方が良い，上田では科名を分化し過ぎて困っている一面もあるのではないかと逆襲されたので私も観念し然らばお教えに従って高分子に関する講座を繊維化学科に増加する事で他の科の改組をお認め願いたいと要望して引下がった。

e 年末年始の候に結局信大は伊那の農学部に於ける畜産学科の増設が政治的に認められ上田の改組増科は研究するため一年見送られる事になってしまった。

6 結 び

池田首相の所得倍増論を聞くまでもなく戦前国家予算の内軍事費のために割合は過半を占め日支事変後は7割以上にもなったものが戦後2割余で足りている。斯くて科学技術の遅れは急速に取戻しつつあるので諸産業の伸展は真に目覚しくやがて英，仏，独，伊の如く我が国も労働力が不足し倍増計画の盛路となろうとさえ心配される。これを生産性向上の遅少な農業人口に求める事は必至の情勢であろうが，これを如何に調製するか農及び工の二元的存在の繊維学部に課せられた研究課題は決して軽くない，かように繊維学部に課せられた使命の重大性に鑑み各位の御健斗を祈りつつ私は定年退職することになった。

以来小泉学部長を中心に学内外一致御尽力の実が結び既に繊維機械学科の増科が認められ学生定員の大巾増加を見るに至り昨年10月50周年記念式典は希望に満ち溢れた再生へのスタートとなった事を心から慶祝し感謝の気持で一杯であった

註1． 五十年前我が国の工業といえば製糸，紡績機織の繊維工業が90%を占めていた。水力発電所も各地に建設され始めたが平時の電燈を賄うに過ぎず製糸工場の原動の如きは水車によるものが多く水利のなき地では蒸汽エンジンが採用された。母校創立当時は60馬力のエンジンが採用されていた。久原鉱業の修繕工場が日立製作所と改称されたのもこのころであった。

註2． 20数年も前のこと石倉新十郎先生は製糸，紡織，化学の三科出揃った以上母校も工学部門に入るべきである事を校長並びに文部省に要望されたが時を得なかった事が先生の未だ五十才にもならぬ若さを以って本官を辞任された原因の一つと思う時感慨無量に堪えないものがある。

註3． 春山大学課長は剛直で単科大学運動の時には局長次長等と共に原案を固守した方で記憶に新なものがある。敗軍の将兵を語らざること十年にして私はいうなれば武士のなさけを求めなければならない立場に立った。兎に角私は話してわかる間柄になり得たことを喜こんでいる。この間清水事務長の苦心は並々ならぬものがあった。

解説 昨年創立50周年記念祝典も無事盛大に終了致した。50年と云う長い才月を振返って見れば繊維学部の果した使命は計り知れないものであることは今更長々弁々するまでもないが，しかしながら我々は此の結果を辿って見れば欲目ではあるが物足りないものがある。此の期間繊維の工学及び化学方面に大きな跳躍をなして居るものの少し蚕糸偏重に失し近時代の潮流に乗り得る対策はなされて居らなかったことである。少なくとも25周年祝典を期に今の構想は実現されて居らなければならなかったと思う。当時すでに旧師石倉先生は今日あるを憂えて居られたことを今想起して感無量のものがある。私共学生当時蚕糸以外に何物もなく校歌の示す如く蚕糸一条に育てられて来たのである。創設の趣旨から之は当然のことではあるがもっと巾のあるものでなければならなかった。これは今更泣ごとに過ぎない。今度漸くにして改組繊拡充をさけばれ出し新清な空気が吹込まれつつあることは誠に慶賀に堪えない次第である。その第一歩として我学部にも産業の礎石である機械学科にまさるとも劣らない繊維機械学科の新設の運びになったことは喜ばしき限りである。何事でも新に創らるることは周囲其の他色々の事情から非常に困難を伴うものでごたぶんにもれず新設に当って前学部長に始って現学部長並びに各先生の血の出る様な苦心と燃えるが如き情熱で完成に持ってこられたことは誠に敬服の至りである。ここに経過道程改進内容これに伴う経費募金将来の改組拡充の計画全貌の御寄稿を頂いて祝号と致した次第である。（小林）

日本工業規格表示許可工場

日本石綿紡織株式会社

本社 長野市三輪本郷

TEL (2) 2675 (3) 0093

綜合建設工事一式

土木建築アスファルト舗装
上下水道衛生設備工事 設計施工

長野県上田市大字常入682

宮 下 組

TEL（上田）271.2071

信州大学繊維学部改新期成同盟会趣意書

長野県上田市にある信州大学繊維学部は，前身上田蚕糸専門学校以来，繊維の総合学府として名声高く，創立以来50年業界に貢献した功績は御承知のとおりであります。このたび同学部は，繊維産業界の最近の動向に対処するため，又国家が要請する科学技術振興の線に沿い，従来の学部機構を根本的に改編拡充すると共に，新たに繊維機械学科を設置して，学生を増募し更に積極的に高分子研究所を設立して，業界の要望に答えようとしております。

しかしながら大学当局が計画する改新事業に要する経費は二億三千余万円でありまして，その計画実現につき強い希望があるにもかかわらず，全額国家予算の支出に俟つときは今後相当の長年月を要し，早急に改新の実をあげることは不可能と思われます。そこで大学当局は上記経費の中一億三千万円の募金によりその目的を達成しようと努力いたしております。そこで，大学の希望がかなえられるために，地元の県市地元出身の国会議員，並に繊維および一般高分子関係の方々の御協力を得て「信州大学繊維学部改新期成同盟会」が結成され，別記の募金を計画いたしました。

同盟会発足以来小坂善太郎氏が会長として御尽力をいただいておりましたが，小坂会長が外務大臣の激職にあられ，やむなく会長を辞任されましたので，私がその後任として会長に推薦されて受諾いたしました。

ついては上記期成同盟会の趣旨に御賛同下され，御出費御多端の折柄とは存じますが，大学側の熱意御賢察の上，念願達成のため格別の御支援御援助賜りますよう，切に懇願申し上げる次第であります。

昭 和 35 年 11 月

信州大学繊維学部改新期成同盟会長

木　内　四　郎

殿

拝啓ますます御多祥のこと慶賀の至りに存じます。

さて信州大学繊維学部は，明治43年上田蚕糸専門学校として創立以来50年，いくたの研究を通じ，また多数の卒業生を社会に送って学界ならびに業界に貢献してきました。しかるに最近世界の繊維産業の実態は急角度に変転し，日進月歩の速度はげしく従来学部が歩んできた機構をもってしては，この新時代のすう勢に対応することははなはだしく困難の情勢になりました。よって学部は既存の養蚕学科，製糸学科，紡織学科，繊維化学科の全体にわたり，その体系と内容を根本的に改組拡充することの急務であることを痛感し，慎重研究の結果，上記の学科をそれぞれ繊維農学科，紡織工学科，繊維工業化学科に改編し更に繊維機械学科を新設して，内容を整備拡充するとともに，繊維産業に不可欠の基礎的部門である高分子工業研究所を設置し，その研究を通じての高度の利用と開発により，天然繊維の改良，合成繊維の新成改良に加えてプラスチック，フイルム，塗料，電気絶縁材料，接着剤等の工業的発展に寄与することが新時代に即応した教育ならびに研究の合理的な方法であることの結論に達しました。

わが繊維学部は，本年をもって創立50周年を迎えましたが半世紀にわたる過去の光輝ある歴史をたたえるとともに，上述のような整備された新時代の研究教育機関として改新し，もってますます国家社会の負託に答えようとする念願に燃えております。

一方本学部改新計画資金の募金について関係有志の方々の御協力を得て信州大学改新期成同盟会が結成され本学部の目的達成に厚い御尽力をいただいております。なにとぞ上記同盟会の御趣旨に御賛同下され深厚なる御援助を賜わりたくお願い申し上げます。

なお寄附金の管理，建物の建設，機器の備付等実施の点については，期成同盟会と十分な連絡をとり御寄附の趣旨に沿うよう万全を期するつもりであります。

敬　具

昭　和　35　年　11　月

信 州 大 学 長　伊　藤　武　男

信州大学繊維学部長　小　泉　清　明

工作機械製作販売
暖房配管工事一式
上水道工事一式
土木建築請負

上田市大字常入 1850

宮島工業株式会社

取締役社長　宮島定義

TEL　2185～7

テレビとステレオ

岩城屋ラジオ店

上田市横町　TEL　981

信州大学繊維学部改新の内容概要

A 既存学科の整備拡充

1. 学科組織

a 養蚕学科を繊維農学科に改称する。

改組後の講座：養蚕学，蚕種及遺伝学，桑及土壌肥料学，病理害虫学，繊維作物学，繊維動物学

b 紡織学科と製糸学科の一部をもって紡織工学科に改称する。

改組後の講座：紡績学，製糸学，製布学，繊維物理学繊維計測工学

c 繊維化学科を繊維工業化学科に改組拡充する。

改組後の講座：高分子化学，化学繊維学，天然繊維化学，色染加工学，高分子成型学※，有機合成化学※（※は増設）

d 繊維機械学科を新設する（但し製糸学科および紡織学科の一部教官振替）

講座：繊維応用力学，熱及流体工学，繊維機械学，繊維測定機械学，繊維化学機械学

教 官 15 名

2. 教官組織

現行定員：教授20 助教授27 講師2 助手14 合計 63名
改新後定員：教授28 助教授31 講師1 助手20 〃 80名
純増定員：教授7 助教授5 講師1（減）助手6 〃17名

3. 事務官関係

現行定員：事務官17 技官6 雇員41 傭人27 〃 91名
改新後定員：〃 21 〃 8 〃 53 〃 45 〃127名
純増定員：〃 4 〃 2 〃 12 〃 18 〃 36名

4. 学生定員（毎年募集定員）

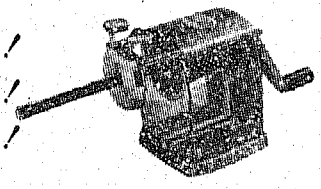
現行定員：養蚕学科 30 製糸学科 30 紡織学科 30 繊維化学科 35 合計 125名
改新後定員：繊維農学科 30 紡織工学科 50 繊維工業化学科 50 繊維機械学科 50 合計 180名
増 員 55名

B 高分子工業研究所の新設

研究所に4研究部門をおき，それぞれ下記の内容の研究を行う。

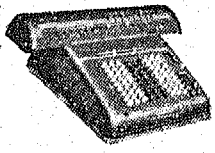
1. 高分子材料部門…高分子流動学を基礎とする繊維およびプラスチック接着剤，塗料，フイルム，電気絶縁材料などの研究
2. 高分子成型研究部門…化学繊維の紡糸，合成樹脂の射出，圧縮，圧延成型などの研究
3. 高分子化学研究部門…合成繊維，合成樹脂，合成ゴム蛋白質，多糖類，ゴムなどの研究
4. 高分子物理化学研究部門…高分子構造，高分子物性などの研究

時代の進みとともに
事務能率向上は
いつも新しいアイデアから



ご卒業記念に！
ご入学祝いに！
ご就職記念に！

★ペン先から電動計算機まで…★



《取扱商品》
事務用機器、紙類、有名文具
スチール事務用家具、製図、測量用品
事務用品各種、記念品、贈答品

※お申越次第、カタログ送付、係員参上！

文化と社会に奉仕する

株式会社 丸洋
（旧社名げんきんや）
本 社 上田市海野町TEL（代）2400
営業所 長野市南石堂町TEL（2）8528

用水処理剤

繊維加工用水の処理……金属イオン封鎖剤 CHELATE-S
ボイラー用水の処理……高純度清缶剤 CHELATE-B
精練・漂白助剤…… CHELATOLE-60
食品添加剤…… CHELATE-F
○詳細説明書御申込次第お送り申し上げます。

日東化工株式會社
東京都目黒区洗足1442番地 電話（781）9526

特 許・実用新案
意匠・商標 出願・審判・訴訟代理
浜 特 許 事 務 所
弁理士 浜 香 三
事務所 東京都港区芝南佐久間町1ノ51
電 話 東 京（501）9202
自 宅 東京都武蔵野市緑町公団住宅7ノ302

信州大学繊維学部改新経費総額

238,047,800円

1	既設学科の整備		
	紡織工学科	営繕および施設費	480,000円
		特殊経費	1,500,000
		計	1,980,000
	繊維工業化学科	営繕および施設費	6,060,000
		設備費	7,719,500
		計	13,779,500
	繊維機械学科	営繕および施設費	11,725,000
		設備費	36,543,000
		計	48,268,000
		合計	64,027,500
2	高分子工業研究所新設		
		建物新営費	44,360,000
		設備費	124,660,300
		研究費基金※	5,000,000
	※毎年の研究費支出のための積立基金		
		合計	174,020,300
		総計	238,047,800

信州大学繊維学部改新に要する募金計画

1　募金予定額　　1億3千万円

2　募金　期間　　3ヶ年　自昭和36年2月1日 至昭和39年1月31日

3　改新　計画

年度	費目	経費予算	摘要
36	建物費	円 34,600,000	高分子工業研究所200坪@75,000円15,000,000円（付帯設備費共） 繊維物理学及繊維化学研究室280坪@70,000円 19,600,000円（付帯設備共）
	設備費	11,400,000	インストロン万能試験機その他
	事務費	4,000,000	設計工事監督委託費その他
	計	50,000,000	
37	設備費	47,000,000	強力型自記×線装置その他
	事務費	3,000,000	
	計	50,000,000	
38	設備費	28,000,000	自記赤外分光光度計その他
	事務費	2,000,000	
	計	30,000,000	
	合計	130,000,000	建物費（付帯設備共）34,600,000円 設備費 86,400,000円 事務費 9,000,000円

備考　1　募金額が1億3千万円を超過した分は改新期成同盟会会則第2条の目的のために使用するものとする。

2　この募金に対しては国家予算として大蔵省の免税認可（36.2.20付）があった。

信州大学繊維学部改新期成同盟会会則

第1条　この会は信州大学繊維学部改新期成同盟会と称し事務所を信州大学繊維学部内に置く。

第2条　この会は信州大学繊維学部（以下学部という）がわが国における繊維科学の研究及び教育の最古の学府たることを想起し，これを進展著しき繊維産業の現況にふさわしき大学に改新することを目的とする。

第3条　この会は前条の目的を達するため次の事業を行う。

1　学部の改新促進に関する事業

2　学部の研究施設並びに研究費の充実に関する事業

3　その他必要と認めた事業

第4条　この会はこの会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

第5条　この会に左の役職員を置く。

1	会長	1名
2	副会長	3名
3	理事	若干名
4	監事	3名
5	幹事	若干名

第6条　会長及び副会長は発起人会において推薦し，その他の役職員は会長が委嘱する。

2　役職員の任期はこの会の存続する期間とする。

第7条　役職員の任務は次のとおりとする。

1　会長はこの会を代表し会務を総理する

2　副会長は会長を補佐し会長事故あるときは代理する

3　理事はこの会の企画運営にあたる

4　監事は会計を監査する

5　幹事は会長の命を受け会務に従事する

第8条　この会に役員会を置き必要に応じ会長が召集する。

2　役員会は会長，副会長及び理事をもって組織する。

第9条　この会は役員会の議を経て顧問及び相談役を推挙する。

2　顧問及び相談役は役員会に出席し意見を述べることができる。

第10条　この会の経費は寄付金及びその他の収入をもってあてる。

母校創立50周年記念式典写真集予約募集

母校創立50周年記念式典を永久に記憶にとどめるための写真撮影は数氏の一方ならぬ努力により，立派な成果をあげることができました。

さる11月の総会において，これを写真集として出版頒布することが議題としてとりあげられましたが，その出版条件として購入希望者が300名を超さねば出版頒布は困難であろうと見通しがつけられました。

25周年記念式典のさいの写真集は，ラシャ表紙で内容20頁（写真40枚）からなるものですが，今回はこれよりも内容体裁が見劣りすることは，あまり好ましいことでないと思います。そこで，これとほぼ同じものをつくることを目標として業者に見つもらせましたところ，300部印刷での販売価格はほぼ700円（500部印刷では600円）になることがわかりました。

一応これを目標として「母校創立50周年記念式典写真集」を予約募集いたします。総会でも論ぜられましたように希望が300名を超さねば出版できませんので，なるべく多くの方がふるって予約申込のほどを願います。申込先は千曲会館，予約申込期日は一応3月末日とします。

なおこの件について，何なりと御希望御高見をお寄せ下さいますならば誠に幸甚です。　（千曲会出版部）

本会記事

理事会評議員会報告

2月17日午後1時より母校第一会議室において理事会評議員会が開催された。出席者は71名委任状は22名であった。荻原理事長挨拶のあと理事長指命により小山清氏議長に選出され協議事項について審議し次の通り決定した。

1. 学部改新期成同盟会の募金に対する本会協力について

(1) 学部改新期成同盟会より関係業界に募金のため出向の連絡が支会にあったさいは支会地域の事情がよくわかっておるので期成同盟会に全面的に協力すること。

(2) 募金に協力をお願いする会社の名簿を完備すること。

(3) 期成同盟会に千曲会より若干名の理事を増加することおよびこの人選は本部一任に決定。

(4) 千曲会としての改新期成同盟会に協力態勢を整えるため協力委員会を作ること，その組織人選は本部に一任に決定。

2. 針塚先生追想録刊行について

(1) 追想録内容に50周年の沿革も織り込むようにとの意見もあったが追想録一本で刊行すること。

(2) 非売品として実費頒布すること。

なお詳細は千曲会館において開催の刊行委員会の決議記事参照。

3. 50周年記念事業募金の未納金の集金について。

50周年記念事業募金の未納金の収入金は昨秋総会後188,555円で累計 5,737,000円 の募金納入となったが尚 492,100円の申込額に対して未収入金がある。総会後の募金収入金は千曲会基本財産に繰り入れることに21回総会で決議されておる。記念品（風呂敷）は募金申込をされ会員全員に発送してある。学部改新にも協力しなければならないので募金未納金については6月末までに完納をお願いする。

4. 郵便料値上げに関連して会費納入促進について

(1) 7月より会報発送料が50%値上げとなる予定であるので本会運営に支障を来たさないよう会費を全会員に完納をお願いする。

(2) 既往において一時金納入会員は425名30ケ年以上完納会員は177名である。本来からいうと，納入良好の会員には会費免除すべきであるが昭和23年から一時金制（終身会費）は定款からさく除されておるので御了承願って御協力をお願いする。

5. 上田繊維学部振興会について。

蒲生委員長より経過報告あり役員は既報（2月号）の通りである。会則の審議は理事会に一任に決定（次号登載予定）50周年記念事業とし設立の上田繊維科学振興会の基金300万円の保管については電信電話債券を購入しその果実利札によって振興会の事業を行う。昭和36年度収支予算書については理事会に一任された。

理事会評議員会出席者（敬称略・順序不同）○印は針塚先生追想録刊行会委員

小泉清明　林　貞三　蒲生俊興　野口新太郎　高木三治　小宮山太助　伊藤　競　荻原清治　母袋忠右衛門　荒木喬　井沢喜三　小山　清　小林尚一　加藤秀次郎　大山　融　香山清和　沓掛久雄　坂口育三　白井美明　松尾卓見　中島　遥　宮城　博　山口定次郎　山崎　寿　和田　晋　山崎嘗録　和田　敦　西沢正一　○岸　勝弥　○碓氷　茂　浜井寿夫　○荻原行雄　○矢沢茂登一　○鈴木教吾　○中川博司　○青木友弥　○高橋　英　○久保田正樹　窪田作水　川上保人　○島田林助　○飯島正胤　○巣山喜吉　飯田一郎　永井千治　松下紀男　市瀬武男　熊田喜代志　石坂虎治郎　鈴木玄九　○菅尾源治　児玉文雄　母袋良平　関　博夫　竹田　寛　小山長雄　遠藤恒久　三石　賢　押金健吾　田中一行　西村善次　一之瀬匡興　美斎津利正　小山　宏　小笠原真次　中原　武　清水隆三　柳沢連子　松橋房治　山岸広三　白井要範

針塚先生追想録刊行会の委員会初回の会合

昨年11月の総会において，針塚先生追想録を刊行すること但しその会計は独立的に行うべきであるから追想録刊行会を組織することなどが議決せられたが，その追想録刊行会の初回の委員会が2月17日の午後に開かれた。針塚先生が逝去されてから既に10数年経過し遺きに失した憾はあるが，千里の道を遠しとせず参加された委員が多数あり，熱心な検討論議がふっとうし，この事業に明かるい前途をトすることが出来た。決まった主なることは次の事項である。

この委員会の代表委員は蒲生俊興，（千曲会理事長）荻原清治，（繊維学部長）小泉清明の三氏，編集委員は猪坂直一鈴木教吾の二氏とする。ほかに常任委員として野口新太郎，山口定次郎，松尾卓見の三氏をあげる。

出版計画の概要

1. 発行所　上田市信大繊維学部内社団法人千曲会
1. 発行日　昭和37年4月の予定
1. 発行部数　800～1000部の予定
1. 体　裁　A5版本文350頁，外に写真版多数，布製
1. 経　費　非売品実費頒布，1部500円～1000円の見込。計画的な寄附募集はさしひかえるが，篤志寄附は受入れる。

編集内容

1. 針塚先生の小伝（約30頁の予定）
1. 針塚先生の手紙および感想文
1. 追想文多数

追想原稿及び資料募集小規

1. 追想原稿は400字詰縦書原稿用紙6枚以内，〆切期日は本年5月末日
1. 資料および写真はなるべく多数本年4月末日迄に集める

針塚先生追想原稿および資料の募集

追想録刊行会の委員会初回の会合の記事にもしるしましたように，追想録の内容は先生の小伝，先生の手紙感想文などのほかに多数の追想文を収録することになりました。朝夕先生に接した学生時代のほほえましい思い出，慈愛のお叱りに感激したり，社会人になってからの尊い御教導や御懇情の思い出などをおもいおもいの感懐をこめて書き綴って下さい。それはただに先生の追想記であるばかりでなく，同窓学友あるいは恩師諸先生の回想にもつながる筈です。どなたでも結構です。あなたの追憶をお寄せ下さい。また写真や資料もお借りしたいものです。それを編集担当者において処理編集し針塚先生追想録としての完璧を期したいと思います。

追想原稿は400字詰原稿用紙（縦書）6枚以内，〆切期日は本年5月末日とします。資料および写真はなるべく多数，返却を希望される向は添記して本年4月末日迄に御提供下さい。

「針塚先生追想録」予約募集

この追想録は限定出版ですが，その部数をきめることは頒価にも関連するむづかしい問題です。それで予約募集をします。期日は本年5月末日。頒価は一応500円～1000円と見込みましたがなるべく500円迄切下げるよう努力したいと思います。周囲の方々にもおすすめいただき1部でも多く予約申込下さい。

篤志寄附について

計画的な募金はいたしませんが，心からなる篤志寄附は歓迎すべきことです。追想録がなるべくひろく頒布出来るように，またこの事業がスムースに運ぶように篤志の御援助を願います。

上田市信大繊維学部千曲会館内
針塚先生追想録刊行委員会

会員だより

安筑支会総会出席の記

南国では花だよりを聞こうと言う近頃白雪に粧われた美ケ原を密近くに眺める当地はまだ肌寒い空気を感ずる。井沢支会長を始め年長者，学部出身者を併せて集まるもの30余名。支会長の挨拶報告を皮きりに会は進められた。私も学部の近頃の動きを報告，説明し，会員諸氏のいろいろな質問があり，学部改新に対する非常な関心の程が示された。ついで宴会となり酒間の気焔は夜の更けるのを忘れて続けられた。特に松本市長選を明日に控え保守，革新何れをとるかに議論の花が咲いた。某氏の応援をやっているY君は学生時代から弁論部の斗士としての貫録に物を言わせて口角泡をとばせていた席間卒業生に政治家のないのを慨嘆，Y君のような人物を育てて行くことを話し合った。彼れの順調な生長を祈りたい。

会のフィナーレはどこの支会でも必ず学生時代におぼえたパッパがでる。若き日が憶い出される感傷だろう。最後に支会千曲会の弥栄を祈る万才を唱和して会を閉ぢた。なお新支会長には松岡潔氏，幹事長には田中実氏が選出された。

(36.2.18.荻原清次)

新入会員の懇談会開催さる

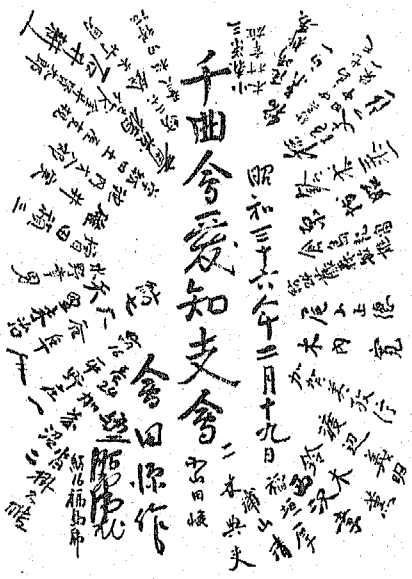
3月10日卒業の新入会員との本会懇談会が繊維化学科4年生をはじめに各学科別に開かれた。この懇談会では理事長理事役員より本会の組織事業支会との連絡会費納入等について説明や社会人として注意事項について話された。和気満つるうちに研究者として技術者として健勝を期待してその門出を祝福し，懇談会を終った。

愛知支会総会報告

千曲会愛知支会は2月19日県内の中心名古屋市に母校会田教授をお迎えして会員42名参集し盛大に開会された。

当支会は地域が広いため例年は東三河（豊橋市）西三河（岡崎市）知多，愛知名古屋（名古屋市）尾西（一之宮市）の四地地区に分れて地区別の総会を開催していたが，時には県内会長一堂に会するのも意義あることと存じ本年は名古屋市で開催されたものである。

会議は杏掛支会長の挨拶に始まり理事会報告（特に千曲会費納入促進についての要請があり，次いで石井幹事の会計報告，会田教授の母校近況報告があった。続いて会食に移り，自己紹介が始まった



が，思い出話，将来への希望等に年令差による固さもほぐれて和気あいあいの内に歓談しばし，最近ソ連より帰国された天野氏（蚕9）の視察談に時間の移るのも忘れ，最後に服部氏（紡2）の音頭により母校の発展を祈って万才三唱し幕を閉じた。

母校ニュース

入学志願者は増加

36年度の学部入学志願者は2月20日現在521名で昨年にくらべかなり増加を示し特に繊維化学科は228名で6.5倍に繊維機械学専攻165名他学科は昨年と略同様であった。

スキー選手権大会に参加

信州大学学部対抗学生スキー選手権大会は去る2月4日・5日の両日にわたって，北安曇郡白馬村細野スキー場において役員，選手多数参加のもと大観集を前にして行われた。本学部学生も20有余名参加し，滑降，回転，距離，リレーの各種目にわたり活躍した。特に滑降競技においては全長2,000m，最大傾斜30有余度のスロープでその朋を競い転倒者が続出したが，製糸学科2年下出君は各種目にその豪快な腕を振い総合で2位に入賞した。またリレーでは繊維学部学生の頑張りは3位に入賞という栄誉をもたらし総合点でも3位に入賞し得た。ちなみに優勝は教育学部であり2位は農学部だあった。なお今回の得点はほとんど1，2年生によるもので来年の活躍が期待されている。

土屋教博先生医博に

教養学科助教授土屋博先生は，1月18日順天堂医科大学より医学博士の学位をうけられた。主論文は「4—アセチルアミノ—I—ラウロイルスフォンアミド及びその誘導体と放射線の併用効果に就いて」である。詳細は追って掲載の予定。

会員動静

氏名	卒回	支会	住所勤先
池田　宗二	化9	飯高	長野県中野高等学校(中野市)（住）従前前通
中村　馨	蚕16	安筑	松筑地方事務所蚕糸課長（松本市旭町）
中村　正義	紡19	〃	中信開発調査事務所長（松本市鷹匠町）
小池　良介	糸36	〃	長野県繊維工業試験場（松本市栄町）（住）松本市大町北区177
山岡　文雄	学糸4	〃	旧姓大久保（自営）松本市東長沢町）
酒井　嘉美	蚕17	福島	片倉工業株式会社平製糸所長（福島県平市）
堀内　虎男	糸別1	更埴	長野県繭検定所篠の井支所（篠井市）
田村　昌三	糸別3	〃	長野県繭検定所篠の井支所（篠井市）
日崎　武美	蚕26	群馬	伊勢崎蚕業事務所長（伊勢崎市）（住）前橋市曲輪町164
馬場　長市	糸16	東京	京東都杉並区上高井戸4の18 88の6勤務従前通
松村　恵一	糸20	埼玉	所沢毛織KK（埼玉県入間郡西部町）（住）熊ケ谷市宮本町110
横沢　平	糸21	近畿	和歌山県工業試験場（和歌山市宇須139）（住）和歌山市西の庄915
稲垣文一郎	糸23	愛知	愛知県西尾市上町作通り屋敷27　勤務従前通

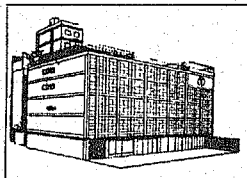
叶沢　弘	糸24	福島	福島県郡山市麓山町13勤務従前通り
笠井　利忠	学糸2	東京	東京都杉並区高円寺町2の104勤務従前通り
北条五郎右衛門	蚕17	上小	長野県上小地方事務所蚕糸課長（上田市前田町）
雨宮　育造	糸36	神奈川	横浜市神奈川区西寺尾町1721
鈴木　泰平	糸28	東京	豊国興業ＫＫ（東京都中央区日本橋小舟町2の5）
金丸　功	糸21	東京	ＫＫ萩原編物機製作所大阪営業所（大阪市）
北野　三郎	紡10	静岡	静岡県浜名郡浜北町新原3786
降旗　孝	蚕15	茨城	片倉工業株式会社取手製作所長（茨城県北相馬郡取手町甲773の1
峰村　稔	学糸1	諏訪	増沢工業株式会社（長野県岡谷市小井川7155番地（住）東京都北区神谷町2丁目32
大森　文作	蚕33後	群馬	高崎蚕業事務所（高崎市）（住）前橋市曲輪町164
上石睦二郎	糸29	飯高	長野県下高井地方事務所蚕糸課長（下高井郡中野市）
池田　忠夫	化6	静岡	東洋レーヨン株式会社三島研究室（静岡県三島市4,845）（住）三島市鐘坂4,773の2東レ社宅41
近藤　員矣	蚕29	上小	丸子中学校（長野県小県郡丸子町）（住）従前通り
金井　弘	蚕別2	埼玉	埼玉繊維工業株式会社（埼玉県本庄市2,875）
小林　脩三	学紡8	愛知	三菱レイヨン繊維サービスセンター（名古屋市車区大幸町600）
土屋　正三	学紡7	石川	東和織物株式会社東和寮（石川県石川郡野々市町）
和田　貞政	紡10	石川	通産省金沢繊維製品検査所長（金沢市長町川岸44）（住）金沢市泉野町3の49
高橋　英	糸21	神奈川	須藤製糸横浜出張所（横浜市中区北仲通5の57帝蚕ビル内）（住）横浜市港北区篠原町2,496
佐藤季子男	糸13	神奈川	横浜市磯子区磯子町間坂1,120電⑨—5,627角田商店（横浜市中区北仲通五ノ五七帝蚕ビル）
平井　清	紡28	近畿	大阪府豊中市東豊中公園住宅71号館204号室
児玉　和巳	化7	東京	日遊マスタービルダーズ株式会社（東京都千代田区大手町2の4新大手町ビル（住）東京都杉並区大宮前3の65日曹富士見丘寮）
向井　昭郎	農2	東京	岡建設事務所（東京都千代田区神田旭町2）（住）東京都北多摩郡久留米町ヒバリ丘団地58—308
安喰　定治	蚕17	宮城	宮城県庁蚕糸課（仙台市勾当台通り）（住）前通り
柴内　正見	蚕32	〃	〃
伊藤　義正	学蚕8	宮城	津谷農業高校（宮城県本吉郡本吉町）
石渡　重夫	糸28	〃	宮城県繭検定所（仙台市長町笠見2）
大田　達郎	蚕37	〃	片倉工業株式会社岩出製糸所志津川乾繭所（宮城県本吉郡志郡志津川町塩入）
倉沢　恒夫	蚕21	〃	伊具蚕業指導所長（宮城県伊具郡角田町）（住）仙台市新坂通県営アパート5の18
柿沢　泰彦	蚕29	〃	宮城県蚕業試験場（宮城県亘理郡亘理町館南）
西山　久雄	蚕36	〃	宮城県蚕業試験場（　〃　）
菅野　正明	蚕別4	〃	〃
保科　清	学蚕1	〃	宮城県伊具農業高校（宮城県伊具郡丸森町）
向井　致弥	蚕10	〃	宮城県農政課顧問（住）従前通
両角　繁博	蚕36	〃	宮城県農政課顧問（仙台市勾当台通り）
森　亮平	蚕17	〃	宮城県黒川農業高校（宮城県黒川町大和町吉岡）
東家　明秀	糸19	〃	宮城宮城県庁蚕糸課技術補佐（仙台市勾当台通）
山本友之亟	蚕15	〃	宮城県農業信用基金協会事務局長（住）従前通ＴＥＬ仙台⑤—2,832

島津の科学機械
松下の計測器
有限会社 川上科学キカイ店
川上　保人（学化1回卒）
上田市末広町5293
電話（上田）2321番

編集室より

信州路も梅一輪一輪の暖かさを感ずる季節となりました。母校学園は3月10日の卒業式を控えて多忙，つづいて入学試験ですことに本年は学部改新の第1段階として繊維機械学科（繊維機械学専攻として募集）の増設も確定して優秀な入学志願者も増え本会の隆盛にも繋がり同慶のことです。本号は繊維機械学科新設の祝号とし盛り沢山の記事をいただき登載いたしました。皆様の随想御意見などどしどし御寄稿下さるようお待ちいたします。

編集委員　小林　尚一　西村　善次　柳沢　幸男
香山　清和　大屋　正尚　中原　武
一之瀬匡典　小山　定　白井　要範


皆様の百貨店
上田・中央 ほてりや

母校にお出での際は当ホテルへ
長野県小県郡塩田町
別所温泉
花屋ホテル
電話（塩田）13番